

事業所の概要表

(令和 3 年 10 月 4 日現在)

事業所名	アクティブライフ松柏					
法人名	医療法人 青峰会					
所在地	愛媛県八幡浜市松柏甲728-1					
電話番号	0894-22-2330					
FAX番号	0894-22-0889					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 17 年 3 月 15 日					
建物構造	☒ 木造 ☐ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☐ 平屋 (2) 階建て (1.2) 階部分					
併設事業所の有無	☒ 無 ☐ 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数	18 人		
利用者人数	18 名 (男性 6 人 女性 12 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	8 名	要介護2	3 名
	要介護3	3 名	要介護4	3 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	1 人	1~3年未満	1 人	3~5年未満	人
	5~10年未満	1 人	10年以上	9 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 2 人			
	その他 ()					
看護職員の配置	☐ 無 ☒ 有 (☐ 直接雇用 ☒ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	チヨダクリニック・真網代くじらリハビリテーション病院・王子の森歯科					
看取りの体制 (開設時から)	☐ 無 ☒ 有 (看取り人数: 9 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,000 円	
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有 円	
保証金の有無	☒ 無 ☐ 有 円 償却の有無 ☐ 無 ☐ 有	
食材料費	1日当たり	1,000 円 (朝食: 300 円 昼食: 300 円)
	おやつ:	円 (夕食: 400 円)
食事の提供方法	☒ 事業所で調理 ☐ 他施設等で調理 ☐ 外注(配食等) ☐ その他 ()	
その他の費用	・ 水道光熱費	8,000 円
	・ 寝具代	100(月額) 円
	・ オムツ代	実費 円
	・	円

家族会の有無	☒ 無 ☐ 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	☐ 無 ☒ 有 (発行回数: 6 回) ※過去1年間	
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	☒ 市町担当者 ☐ 地域包括支援センター職員 ☐ 評価機関関係者 ☐ 民生委員 ☒ 自治会・町内会関係者 ☒ 近隣の住民 ☐ 利用者 ☒ 法人外他事業所職員 ☒ 家族等 ☐ その他 ()

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和3年10月26日

【アンケート協力数】※評価機関記入

令和2年11月25日 集計

家族アンケート	(回答数)	14	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	1		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870400417
事業所名	アクティブライフ松柏
(ユニット名)	1階(きんかん)
記入者(管理者)	
氏 名	宇都宮 暁子
自己評価作成日	令和3年10月4日

【事業所理念】※事業所記入 ①地域の中で、その人らしく暮らしながら人の尊厳を大切に生きていく ②家庭的な雰囲気の中で「ゆくり・楽しく・いつも一緒に」をモットーとして、自立支援を行う	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・スタッフ会の議事録をノートから用紙に作成し、ファイル保存。また全員の確認印欄を設けたことで、全員が周知できている。 ・コロナウィルス対策前までには、一階・二階協力して外出支援また地域の行事参加等にも参加ができました。 ・外出ができな中、ご本人の出来る作業、スタッフの手伝い等で短時間ではあるが寄り添える機会を持つように心掛け。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 毎朝10時から体操する時間を持っている。リハビリテーション科医からの生活機能シートの指示と意見に沿って生活の中で、できる動きの訓練等を支援して記録をしている。 体操を行う前に、新聞記事から利用者の関心がありそうな内容を伝えたり、紅葉などの写真記事を見せたりしている。毎月の誕生会は、本人の食べたい物を職員が手作りしてお祝いしている。七夕には、職員が笹と短冊を用意し、利用者と一緒に、願い事を書いて飾ったりした。 7月から事業所内で毎月想定を変えて(火災、水害、消防訓練、原子力避難訓練)訓練を行っている。
---	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】
◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	生活歴やご家族ご本人の希望をお伺いし把握している。ご本人の発言や行動、会話を大切にし、何を求めているかを知るために努めている。	◎		△	入居時、本人や家族から聞いた暮らし方の希望や意向を、アセスメントシートに記入している。その後、日々の中で聞いた本人の言葉や希望は、タブレットの介護記録に入力し、カンファレンスで情報共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	声掛けし、表情や言動、日頃の様子で思いを汲み取る様に努めている。また、本人であればどうかを常に考えて対応している。				さらに、意思の確認が難しいような利用者についても思いや意向についての情報を集める工夫はできないだろうか。
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	毎月のお手紙で本人の様子をお伝えし、面会時や電話にて本人について話している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	1日の生活状態を記録し、ご本人の思いや生活歴を職員全員で情報共有するよう努めている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	都度、利用者様の思いや考えを確認いたうえで対応し、本人の思いや発言は記録に残している。職員間での共有に努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時にご家族やご本人、関係者から情報を聞き取り、アセスメントに記録している。穏やかに過ごされている時に家族や若いころの話を聞きし情報を得るよう努めている。			○	入居時、本人や家族から聞き取り(状態・意思疎通・食事・排泄・歩行・整容・入浴などについて)アセスメントシートの基本情報に記録している。入居前のケアマネジャーから情報を得ることもある。その後得た情報は、カンファレンス時に共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の関わりの中から、有する力の把握に努め、記録に残し、職員で共有するようにしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ご家族様との面会や電話、日課で安心されたり、面会後や体調不良、できない、居場所がないと思われ不安や不安定になられたりと、記録し職員間で共有、安心に繋がる関わりに努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	日々の気になる言動を個人記録に残し、原因を追究し、要因の除去とその後の評価をしている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録で1日の過ごし方を把握し、申し送り等で共有している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	スタッフ会でご本人の発言や気持ち、状態を共有、カンファレンスし、ご本人にとって何がベストなのかを検討している。主治医やNsにご様子を報告している。			○	事前に聞き取った本人、家族の希望、要望や申し送りの内容、利用者の言葉や気持ちを担当者がまとめたものを踏まえて、スタッフ会(ケアカンファレンスを含む)時に、話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人がしたいこと、本人が望む生活を共有検討し、身体状態に合わせた必要な支援を検討している。主治医やNsに状態報告、意見を聞き支援を検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンスの中で課題を明確にし、支援計画に繋げている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日々の介護記録と、モニタリングにより介護計画の見直しをしている。本人の意向が明確でない際には、生活歴と介護記録を照らし合わせ安全安楽を考慮した計画になっている。				カンファレンスで話し合った内容をもとに、介護計画を作成している。 さらに、すべての職員が介護計画を把握、理解し支援できるように取り組みを工夫してほしい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人について職員間で話し合いをし、本人の思いを尊重した計画になるよう努めている。主治医やNsに意見を求め、ご家族と面会や電話でお話しし、支援内容を介護記録に掲載している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方においても快適に過ごせるよう、慣れ親しんだものを居室に設置したり、空調、衣類の調整、体位変換をして暮らし方について考えている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族には協力していただき、デイケアや理容サービスは計画に入れている。地域の方々には現在コロナの影響にて計画には入っていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画は毎日の介護記録の中に記入してあり、職員全員が把握できるようにしている。日々の変化については申し送りやカンファレンスにて情報を共有している。			△	新たに計画を作成した際には、カンファレンス記録や業務日誌で周知している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画に沿ってケアをしている。カンファレンスにて状況を共有し、定期的に評価を行い日々の支援に繋げている。			△	介護計画に沿ってケアが実践できたかについては、介護記録に記入するようになっているが記録量は少ない。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に、具体的に内容を記録している。			△	介護記録の内容の中に計画について記入したものもあるが情報量は少なく、探す必要がある。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ご様子、身体状態を個別記録に記録している。また、業務日誌にも記録し情報を共有している。			△	カンファレンス時には、介護計画にこだわらず、日々の支援についての気づきを話し合っている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	特に変わりがなければ6カ月毎に、あとは変化がある毎にカンファレンスを開き介護計画を見直している。			◎	ケアマネジャーが責任を持って期間を管理し、見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のスタッフ会にて状況を確認している。変化が見られない場合も担当職員が確認を行っている。			◎	毎月、2ユニット合同のスタッフ会のあと、ユニット毎に分かれて、すべての利用者について現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ご家族、主治医、Nsに状況を報告相談し、新しい計画を作成している。			○	食事が減った利用者について、「食事形態を変えてはどうか」と言う医師のアドバイスを採り入れ、新たに計画を作成していた。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	課題を解決するため、毎月のスタッフ会で話し合いを行い、緊急の場合はスタッフを招集することがある。			◎	毎月、2ユニット合同のスタッフ会を行い、議事録を作成している。 緊急案件(事故・ヒヤリハットに関することが多い)は、その日の勤務者と都合のつく職員とで話し合っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	自由に意見が出せる雰囲気づくりをして、意見交換ができています。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎月のスタッフ会を全員対象として、可能な限り参加できる日程や時間、場所を工夫している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	スタッフ会の議事録を作成し、ファイルに綴じ、全員が情報共有できるようにしている。			◎	スタッフ会の議事録を確認して押印するしくみをつくっている。議事録の押印欄に全員の印が揃ったかどうかは、管理者が確認している。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	ご様子、身体状態を個別記録に記録している。また、業務日誌にも記録し情報を共有している。確認した職員は押印するしくみをつくっている。			◎	申し送りや業務日誌で伝達している。業務日誌の申し送り欄は、利用者欄と業務欄にわけて、職員が確認しやすいよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	バイタル表や業務日誌、メモ等の伝達手段で、重要な情報は全てのスタッフに伝わっている。	◎			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	ご利用者の生活歴や希望を把握し、声掛け、その日の気分に合わせてしたいことを叶える努力をしている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	作品作りの際には選んでいただいたり、入浴、食後の過ごし方など声掛けし自己決定の場を作っている。			評価 困難	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ご利用者に合わせ、口元や表情から思いに沿った支援を行っている。自己決定できるよう、声掛けで問い、納得した生活ができるように支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	時間はご利用者のタイミングに合わせている。食事も定時には声掛けをするが希望に合わせて対応している。				体操を行う前に、新聞記事から利用者の関心がありそうな内容を伝えたり、紅葉などの写真記事を見せたりしている。 毎月の誕生会は、本人の食べたい物を職員が手作りしてお祝いしている。 七夕には、職員が笹と短冊を用意し、利用者と一緒に、願い事を書いたり飾ったりした。
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	会話の中で、それぞれに合わせてできることを考え手作業や作品作りをしている。花を生けたり、新聞の内容を確認したり、自然と喜びや楽しみが表れるように努力している。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	意思疎通が困難でも、表情や体の動き、反応を見逃さず本人の意向に沿った暮らしができるように努力している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人権を損なわないよう、お一人お一人を尊重し対応するよう努力している。毎月のスタッフ会にて管理者から接遇について注意点の話がある。	○	○	○	毎月のスタッフ会時に、管理者が接遇について話をしている。また、9月のスタッフ会時の勉強会で、人権について学んでおり、欠席した職員には、資料を配布している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさず丁寧な介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	ご利用者の近くでさりげなく声掛けしたり、お聞きしたりしている。			評価 困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	周りから見えないように扉の調節をしたり、見守りをしながら距離をおいて対応する時がある。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室に入る際には、声掛けし返答により入室している。ノックを忘れていたことがある。			評価 困難	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報は、関係者以外には他言せず、資料は持ち帰らないようにしている。記名がある物の廃棄はシュレッターにかけたり、見えないように処理している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	新聞紙を畳んだり、お膳拭きや、食器洗い、洗濯物たたみなどをしていただき、感謝の言葉を伝えている。				利用者同士の関係性をみながら席を決めている。トラブルになりそうな時には、職員が早めに間に入り関係性が保てるようにしている。 誕生会には、本人に他利用者からプレゼントを渡してもらった場面をつくり、みなでお祝いしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	ご利用者同士で話されたり、一緒にテレビを観たり、テーブル拭きや互いの洗濯物をたたみ合ったり、役割の担当を理解されている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	ご利用者の関係性を見てテーブル席を配慮している。状況により間に入り、トラブルになる前に距離を取っていただくよう誘導することがある。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	思い込みや誤解があった際にはスタッフが中に入り、話を聞いたり、説明し理解していただけるよう努力している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	基本情報ファイルからの把握と、ご家族、ご利用者からお聞きして把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日々の会話で地域の話をしたり、新聞内容を確認する時やおやつのお時間にお聞きし、把握に努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナの感染対策で外出はできていないが、知人友人と電話で会話されたり、関係性を継続している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナの感染対策で、ご家族と玄関でビニール越しに面会されている。ご迷惑をおかけしているがご理解いただいている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。 (職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出支援ができていない。デイケアに通所されている方は気分転換やリハビリ、他者との交流ができていない。	○	○	△	デイケアに通う人以外は、玄関先に出て過ごすことはあるが外出の機会はない。 さらに、利用者、職員の気分転換を図る意味からも、時期をみながら散歩やドライブなど支援できないだろうか。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	以前は、踊りのボランティアや中学生の職場体験の受け入れをしていたが、現在はコロナの感染予防で受け入れができていない。				天気の良い日に外気浴に誘うこともあるが、機会は少ない。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い日には、中庭に出て外気浴をしている。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	ご家族に協力をしていただくが、コロナの感染予防対策で現在は外出をひかえている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ご利用者の言動や変化をスタッフ間で共有し、要因をひもとき、取り除くよう努力している。				毎朝10時から体操する時間を持っている。 リハビリテーション科医からの生活機能シートの指示と意見に沿って生活の中で、できる動きの訓練等を支援して記録をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ラジオ体操、リハビリ体操を実施している。日常のできることをしていただくように支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	必要以上に手や口を出さないよう、ご利用者のペースに合わせ見守りしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入居時のアセスメントや生活歴、日頃の会話の様子や行動からできることしたいことを把握している。				利用者が日常的に、野菜の下ごしらえやお盆拭き、洗濯物たたみやカーテン閉めを行えるよう場面をつくっている。片まひのある利用者がすり鉢で胡麻をする時には、職員がすり鉢を押さえてサポートしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	できる範囲で料理の下準備や洗濯物干したたみなどをしていたり、日々の生活で役割となったものを継続している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナの感染予防対策で、地域の中に出ていく機会を作れていない。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴の衣類の準備はご利用者と一緒に行っている。普段の様子から個人の好みやおしゃれについて把握している。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪型や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	ご自身で服を選んでいただいたり、できない場合も、生活歴や以前の写真などから好みを理解し希望に沿うよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	その人らしさを大切に、季節や体調に合わせて、一緒に考えたり勧めたりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節や行事に合わせて、その人らしく過ごせるよう、一緒に考え支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	モーニングケアや食後の口腔ケア、汚れによる更衣や髭剃り整髪など自尊心を傷つけないように支援している。されげなく対応している。	◎	○	評価困難	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	2か月に1度、訪問の理容師にきてもらい散髪や顔そりを行っている。希望があれば家族に協力していただいている。				
		g	重度な状態であっても、髪型や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その人らしさを大切に、整髪や服装に気を付けて支援している。			○	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	楽しく食事ができるように盛り付けや色彩に気を付け、献立の説明をしている。ご利用者にあった食事形態で提供している。				買い物・食材選びは、職員が行っている。献立は、これまでに立てた献立を参考にして職員が立てている。野菜の下ごしらえや後片付けは、利用者と一緒に行っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	誕生日は何を食べたいか聞き取りをしている。食材の下ごしらえや後片づけをできる範囲でご利用者と一緒に行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	できることを見つけ、テーブル拭きやゴマすりや食材の混ぜ合わせ、皿洗いをしていただき、自信と達成感、役割につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好き嫌いは会話の中や、スタッフ間で把握共有し対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節の旬の食材を献立に入れ、行事の際にもその時に応じた献立を考え提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	ご利用者の咀嚼や嚥下状態、義歯の有無に応じて刻みやミキサー、粥、トロミ剤使用など対応している。彩に気を付けている。				職員の、会話の中から利用者の好き嫌いを把握しており、それを踏まえて献立を立てている。事業所の菜園で採れたさつま芋を天ぷらにしたり、職員からのおすすめわけの果で、果ご飯を作ったりしている。誕生会の食事は、誕生者の希望の献立を採り入れている。
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	昔から使用していて愛着がある物の使用や、ご利用者に合わせ、軽いものや持ちやすい食器を使用している。			評価 困難	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	昼食時には介助が必要なご利用者の隣に座り、一緒に食べながらサポートしている。			評価 困難	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	本日の献立を見やすい位置に記入している。フロアとキッチンの距離が近いので、音やにおいが伝わりやすい。ご利用者に、食材を混ぜたり、すったり、味見をしていただいている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	ご利用者に合わせて、量やバランスを考慮して対応している。水分摂取は定時以外にも適宜お勧めしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	声掛けを工夫、摂取しやすいタイミングをみてこまめにお勧めしたり、ご利用者の好みに沿い提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	バランスを考えメニューを立てているが、栄養士には相談できていない。今後スタッフ会にて話し合います。			△	献立のバランスや調理方法について、スタッフ会時に口頭で話すことはあるが、定期的に話し合うような機会は持っていない。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具を毎日消毒し、食洗器で乾燥させている。食材は毎日配達していただき、新鮮な食材を使用、食材に合わせた保管をしている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を職員全員が理解している。				食事が減った利用者に口内炎がみられたことがあり、注視している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後、口腔ケア時に確認ができている。変化があれば、業務日誌に記載し情報共有できている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	口腔ケアの方法について理解しているが、勉強会の開催を考えている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	できるところは本人様にしていただき、できないところは介助している。汚れが取れにくいところは声掛けしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	声掛けをしながら、できるところはしていただいている。口腔内も都度チェックしている。			評価 困難	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	ご利用者の訴えに耳を傾け、食事摂取量、食事状態を観察し、往診や通院に繋がられるよう家族や歯科医に連絡をするようにしている。				新型コロナウィルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	ご利用者の状態と、ご本人のお気持ち considering し、おむつの使用には十分検討を重ねサポートしている。				カンファレンス時に現状についての情報を出し合い、話し合っている。 利用者の体型変化に合わせて紙パンツのサイズを変更したり、尿量からパッドのサイズを検討したりした事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	なぜ便秘なのかを考え排便コントロールに繋げている。今後、勉強会の開催を考えている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を用いて、パターンや誘導のタイミング、排泄の量など記載しており、把握できている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	△	立位困難者で、時に尿意便意の訴えがある方に対し、対応ができていない時がある。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	ご利用者に合った誘導をしている。排泄の回数など記録し、要因を探究し、主治医に相談しながら改善に向けて取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録により、パターンや兆候を把握しご利用者に合わせた声掛け、誘導ができています。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご利用者、ご家族とおむつの使用法を検討し、状況の変化がある場合も相談して対応している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	ご利用者の希望や状況に合わせて各自に合ったものを使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	できるだけ体操に参加していただき、活動量を増やしたり、腸に良い食物摂取や水分をしっかり摂取していただくよう声掛けしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴の声掛けをし、ご利用者の気分に合わせて入浴されるか決めている。長さや温度等、ご希望に合わせている。	◎		△	基本は個々に週2回の入浴を支援しているが、職員体制の都合で、時には支援ができない時もあるようだ。 湯温や長さ、また、「床に膝をついてお湯を掛けたい」「同性に介助してほしい」等の習慣や希望に応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	ご希望に沿った対応をして、ゆっくり入浴ができるよう支援している。話をしたり、また状態に合わせて1人の時間を過ごせるよう見守りしながら支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声掛けしながら、できることはしていただいている。安全を考えながらゆっくりと介助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒まれる方には、無理強いせず次回声掛けさせていただくようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタル測定とご利用者の体調を伺い、入浴の判断をしている。入浴中、入浴後もよく観察し水分補給や臥床していただき休息をとっていただいている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	ご利用者の希望に沿って就床介助をしている。定時の巡回と適宜様子をうかがい、記録し把握している。				1名の利用者のみ薬剤を使用しており、医師に様子を報告しながら支援している。足元のふらつきがみられ医師に相談して減薬したが、不安症状が強く、現在は、薬を元に戻して様子をみている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠症状のあるご利用者の生活リズムを把握して、要因を探究し、日中の活動量を上げたり、不安がある場合には解消につながる支援をしています。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動量を増やすために、デイケアの利用や、家事の手伝い、レクリエーションの参加など、できることを検討し、主治医と相談しながら支援している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	ご希望や身体状況、体調に合わせて臥床の声掛けを行い、休息の支援をしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望時に対応している。また、ご家族から定期的に電話が入り直接会話されたり、はがきを持ってきていただいている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご利用者が電話番号をメモされていたり、声掛けしご希望があれば支援している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	安心して利用できるように、希望時にはすぐに対応することを普段からお伝えしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	郵便物はご本人に確認していただき、必要時は代読している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族と事前に連絡をとり協力を得ている。こちらからの連絡を了承していただいている。ご利用者の思いも毎月のお手紙でお知らせしている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金の所持や使うことの意味や大切さは理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	コロナの感染対策で外出ができていない。ご家族の協力を得て必要物品や欲しいものを持ってきたりしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	外出の買い物はできていないが、食材の配達には外部の協力を得ているため、今後食べたい物等購入できるよう検討したい。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金の所持はお勧めしていないが、今後ご家族と相談しながらご希望に沿うように検討したい。必要時には施設で立て替えることができるようにしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に説明している。必要時に施設で立て替えるか、ご家族が対応されるか決めている。ご利用者の希望があればご家族に連絡している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	必要物品についてご家族の同意のもと施設で立て替えている。ご利用者の希望や、新たに購入の必要がある場合にはご家族にその都度相談している。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	状況に合わせて職員で検討し、ご家族に理解を得て対応に努めている。	◎		×	特に取り組んでいない。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	来訪時にすぐに対応できるよう扉が開くとチャイムが鳴る様にしている。建物周囲の美化に努め、夜間は外灯の柔らかな光で照らしている。	◎	◎	○	玄関前が駐車場になっており、玄関までスロープを設置している。玄関ポーチがあり車の乗り降り時やちょっと戸外で過ごす時に便利な空間となっている。玄関横の花壇にはアジサイを植えていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節に合わせ飾り付けをしている。ご利用者の作品や行事の写真を貼り、楽しんでいただいている。メダカを飼育しており一緒に世話をしている。	◎	◎	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	まぶしさが気になるご利用者には都度カーテンを閉め対応している。こまめな換気と消臭剤を使用し快適な環境になるよう努めている。掃除が十分でない箇所は早急に対応を考えている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾り、季節の果物に触れたり食べていただいている。野菜の収穫をすることもある。地元の広報誌や新聞内容を確認し、ご利用者同士や職員との会話のきっかけづくりに努めている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	テレビの前にソファを設置し、くつろげる空間作りに努めている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	入り口の扉を開めて、中が見えないようにしている。浴室には暖簾を付けている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に使い慣れた馴染みの物を持参していただくようお願いし、自由に使ってもらっている。	◎		評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや浴室は分かりやすく表示し、日付がわかるようにリビングに日替わりカレンダーを付けている。動線には物を置かないようにしている。			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	ご利用者の様子や思いを職員間で共有把握し、不安や失敗に繋がらないよう不安材料の除去に努めている。誤食誤飲がないように注意している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほつき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	馴染みの物や好みの物は居室に置いて手が届くようにしている。新聞や広報誌をフロアテーブルに置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	こまめな換気、カーテンを開け明るい環境を心がけ、閉塞感のないように努めている。危険のないよう見守りをしている。	◎	△	○	鍵をかけることの弊害について理解する機会を持っていない。日中、玄関に施錠していない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご利用者やご家族の希望に沿って対応している。居室がプライベートな空間としてご利用者自身が施錠されることはある。夜間は安全を考慮し戸締りをしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもスムーズに出入りしている(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関が開く際含め2段階のチャイムが鳴る様にしており、出入りを注視している。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	基本情報や申し送り等で把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子観察で変化に気づき、毎日の介護記録に記載している。業務日誌や申し送りで伝え、確認したら押印し全員が把握している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重症化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	ご利用者の変化は主治医、Nsに電話やFAXで連絡し、状態により訪問していただいたり、入院に繋げている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に確認し、アセスメントシートに記入している。その都度家族に連絡し意向を伺い対応している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご利用者とご家族の意向を主治医に伝え、指示のもと支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院はご家族の協力を得ており、受診結果をお聞きしている。情報は主治医に報告し職員間で共有している。ご本人ご家族の意向をお聞きしながら今後の支援について話し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	Dr. Nsと連携を取り情報提供を行っている。サマリーや口頭で、ご利用者の生活の過ごし方や援助内容を情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者と連携を取り、情報交換に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	グループ内で連携を取り、関係づくりを行えている。外部とは関係づくりができていない機関もあり、今後繋がりを目指していきたいと考えている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	連携Nsに報告相談している。主治医やNsと連絡がすぐに取れるようになっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	Nsと24時間いつでも連絡が取れるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	主治医、Nsと連携が取れており、状態変化に応じた支援ができるようになっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	業務日誌と口頭で申し送りをしている。薬情を常にチェックしている。薬について薬剤師にお聞きする場合もあり。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	マニュアルを作り、誤薬がなく指示どおりに服薬できるようスタッフ間で協力している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎日の介護記録に状態を記録し、状態を主治医やNsに報告している。処方変更がある際には特に注意して観察し、状態を報告相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態観察し、記録している。状態を家族、主治医、Nsに情報提供している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に確認している。重度化した場合は都度話し合いを持ち、意向を確認し支援している。				
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化、終末期について、ご家族と主治医、Ns、スタッフでカンファレンスを開き今後の方針について共有している。	○		○	入居時に、終末期のあり方について、本人、家族から意向を聞き取り、意向確認書を作成している。利用者の状態変化時には、家族・医師・職員で話し合い、方針を共有している。この1年間では看とりの事例はなかった。
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	日々、職員の思いを確認し、職員ごとの力量、仕事への取り組みを把握することで支援の見極めを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	主治医との面談時や入居契約時に説明して理解をいただいている。ご家族からの要望がある際には、都度説明をしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状態をこまめに報告し、ご家族、主治医、Ns、と連携を取りながらチーム支援ができる体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族と面会等でお会いした際には、少しでもお話しする時間を取る様にしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症対策マニュアルで学びに努めている。今後、職場内の勉強会を開催したい。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対策マニュアルがあり、感染しない、させないよう気を付けている。今後、訓練を実施していきたい。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	新聞、テレビ、インターネット、行政等の情報を常に得るようにしている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	保健所や行政からのお知らせや、グループ内での情報収集に努めている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員、ご利用者は感染対策を徹底して行っており、玄関に貼り紙をして、来客者に感染対策の協力をお願いしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	毎月、日々の健康状態やご様子、翌月の予定を記入したお手紙をご家族に送付し、報告している。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 毎月、利用者個々の担当者が、手紙に写真を添えて状況報告を行っている。 2か月ごとに、松柏新聞を家族に送付している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来所時は明るく笑顔で気持ちの良い挨拶を心がけている。季節の飾りや花や植物を置き、心地よい空間作りをしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナ感染症対策で、ご家族の参加の機会は作れていないが、今後の状況によっては活動への参加を考えたい。	○		評価困難	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月のお便りと、2カ月に1度の新聞を発行送付して、お伝えできている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族の不安は全て把握しきれていないが、来所時や電話にて、少しでも不安を解消できるよう、聞かれたことには丁寧に返答している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症について説明し理解をしていただき、その都度合った対応や接し方をお伝えしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のお手紙で施設の状況や行事など報告し、理解や協力を得るようにしている。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナ感染症対策でご家族同士の交流の場を設けられていない。状況が良くなれば検討したい。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	お手紙や、面会時、電話連絡時に、起こりえるリスクについてお伝えし、対策を相談させていただいている。				
j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時や電話で、ご利用者の情報を報告して、意見や希望、質問がないか聞いている。			○	家族来訪時や電話で「何かないですか」と聞いている。		
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約、解約時には丁寧に説明し、不安や分からないことがないかお尋ねし、ご理解、納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	丁寧に説明し、納得していただいている。退居先と連携をとりご家族様に不安がないよう対応している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時、料金改定時には文書と丁寧な説明を行い同意書を返送していただいている。				
III.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	2カ月毎に運営推進会議を実施しているが、コロナ感染症対策で地域の方の参加はできていない。資料を送付して理解を図っている。		◎		自治会に加入しており、回覧板が回ってきている。 現在、地域行事が中止のため、地域交流の機会は少ない状況だが、このような時期であっても地域とのつながりが持てるような工夫や取り組みはできないだろうか。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的な挨拶はしているが、コロナ感染症対策で地域の活動への参加ができていない。	○		×	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	見守り支援して下さる方はおられるが、増えてきているかは分からない。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	コロナ感染症対策で地域の方が立ち寄ったり、遊びに来ることができない状況にある。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	スタッフとご近所の方との挨拶はあるが、立ち寄っていただくことができていない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ感染症対策により、行事や活動の支援の働きかけは行っていない。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の活用に努めたい。力を発揮しながら豊かな暮らしが発揮できるよう支援したい。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の商店や理美容店、消防、交番との協力を得ている。関係作りに努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	2か月に1度行っていたが、コロナ感染症対策により会議の資料を送付して報告、意見を求めている。	○		△	現在、運営推進会議は文書開催で行っている。参加者は、地域から1名のみとなっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	文書で報告している。			○	利用者の状況報告や活動報告と予定について報告している。自己評価・外部評価・目標達成計画の内容と取り組み状況についても文書で報告したようだ。
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や提案があればスタッフに報告し、サービス向上に活かしていた。意見は積極的に取り入れるよう努めていた。		◎	×	意見等は出ていないため、サービスに活かしたり、その結果を報告したりする取り組みは行っていない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	毎回同じメンバーにならないようにしていた。メンバーが出席しやすい日程や時間に配慮していた。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関の誰でも閲覧できる場所に議事録を設置している。				
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に沿った支援を行うように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	入所時にお伝えしているが、地域の方々に伝えきれていない。今後、分かりやすく伝えられるよう考えていきたい。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	研修資料を配布し、参加を促している。				
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	計画的には行っていないが、日々の業務からスキルアップに繋げられるようにスタッフ間で情報を共有し取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の努力や実績は、上司に報告している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	介護職員初任者研修の実施。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	年1回、ストレスチェックを実施している。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	施設内の勉強会で虐待について不適切なケアを周知し、理解している。				身体拘束防止委員会の中で学んでいる。不適切ケアを発見した場合は、管理者・リーダーに報告することになっている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	月1回のスタッフ会や毎日の申し送りや振り返りや話し合いの場を作っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	スタッフ会や申し送り時に意見交換し、問題点を共有して、全身の観察をして異常を発見したらヒヤリハット、事故報告を行っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の疲労やストレスがケアに影響していないか注意を払っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修会や、施設での勉強会で正しく理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	スタッフ会で意見交換し、話し合う機会を作っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	ご家族から拘束の話はないが、身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫をお伝えして理解を図っている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	理解できている職員もいるが、全体的には理解できていない。勉強会を考えていきたい。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	専門職が情報提供を行ったり、相談にのる等の支援を行っている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括センターや社会福祉協議会など連携体制は築いている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変時、事故発生時の対応マニュアルを作成している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	応急手当の訓練を受けている職員はいるが、定期的ではなく、新しい職員は受けていない職員もいる。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット、事故報告書を記入し、ユニット内で検討し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	一人ひとりの状態を報告、共有し事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情用紙を玄関に設置し、苦情があれば対応方法を検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。必要と思われる場合は市や町にも相談している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対し、速やかに回答し、改善策を検討して納得を得るようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ご利用者が話しやすい雰囲気を作る様にしている。お困りはないか声掛けをしている。			○	職員が、日々の中で個別に聞いている。意見等があれば、カンファレンス時に職員で情報共有している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	苦情箱を設置している。家族会では意見交換をしている。また、面会時にお困りはないか声掛けしたり、文書にていつでもお気軽にご連絡くださいと声掛けしている。	○		×	運営に関する意見を聞くような機会は特に持っていない。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	公的機関については重要事項説明書に明記している。				管理者は、年2回、職員と面談を行っている。管理者も職員と一緒にケアに取り組みながら意見や提案を聞いている。
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	現場に來られることはほとんどないが、意見は管理者に伝え、管理者が会議等で報告している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者と職員の面接はあるがそれ以外でも話しやすい環境にはなっている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	施設内で面接や話し合いをして、自己評価も取り組んでいる。				外部評価実施後の運営推進会議時に報告を行っているが、モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	各職員が評価し、課題に取り組んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	職員間で話し合い、一つの目標を立てて取り組むことができた。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議等で報告している。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	取り組みの成果の確認は不十分である。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している。災害時の避難場所や避難経路は理解しているが、緊急時に職員のみの避難は難しい。				7月から事業所内で毎月想定を変えて(火災、水害、消防訓練、原子力避難訓練)訓練を行っている。いざという時に備えて、地域の協力者とは、定期的に支援体制の確認を行ってはどうか。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	日中、夜間を想定した訓練は実施しているが緊急時に行動できるか心配がある。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防火管理者が点検を行い、職員が非常用食料等の保管場所を把握、点検をしている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署立ち合いで訓練を行いアドバイスをいただいている。いざというときに地域の方に協力していただけるよう関わりを深めていきたい。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	消防訓練を実施しており、消防の方より指導していただいている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	広報やインターネット上で情報発信しているが、介護教室や研修の開催までは至っていない。				特に取り組んでいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入居希望のご家族には相談支援を行ったりパンフレットをお渡ししている。		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	以前は夏祭り等開催して交流を深めていたが、コロナ感染対策で地域との関りができていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	中学生の職場体験をしていたがコロナ感染対策で、受け入れできない状況にある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の公民館などのバザーには参加させていた。だいたいいた。			×	特に取り組んでいない。